



失われつつある戦争の記憶を遺すため、太平洋戦争体験者取材し制作している『記憶のマチエール』シリーズの8作目。昭和19年から終戦まで、東京は幾度も空襲を受けた。空襲警報発令のため、東部軍司令部作戦室「女子通信隊」という秘密部隊があった。今回は、元・女子通信隊員の外間加津子氏と山口竹尾氏、そして当時10歳で、表参道で山の手空襲を体験された八木信忠氏にお話を聞いた。

3月10日の東京大空襲と5月25日の山の手大空襲という、東京を襲った2つの大空襲の話を中心に、B-29襲来情報を市民に伝える側の女子通信兵と、空襲被害にあった少年（情報の発信側と受け手）両者の視点から東京中心部での生々しい「戦争体験」が語られる。戦時中、東京は「陸軍東部軍」（関東、長野・新潟）の管轄におかれていた。「東部軍」地域への攻撃に備え、敵機に関するあらゆる情報が作戦司令部へと伝えられた。東部軍作戦司令部の本部は、現在の赤坂TBS本社ビルがあるところで、作戦室は、現在の東京国立近代美術館（竹橋）のところにあった。この竹橋の作戦室で、敵機の情報を受けていたのが「女子通信隊」である。当時の陸軍は、レーダーの他、沿岸各地に設置された監視哨から目視による侵入経路などの詳細な情報を得ていた。女子通信員は事前に担当地区が決まっており、電話を受けながら目の前にあるそれぞれの卓上板にプラグを差し込み、敵機の飛来位置を伝えた。そのプラグは作戦室の大きな地図板と連動していて、敵機が通った場所はランプが点灯する仕組みになっていた。指揮官がそれを見て、警戒警報発令を指示し、横で待機しているNHKのアナウンサーに原稿を渡して、NHKラジオを通じて国民に空襲の予報となる警戒警報や空襲警報が発令された。女子通信隊の本部である東部軍作戦司令部（赤坂）は、昭和20年5月の山の手空襲により全焼し多くの兵士を失ったという。同日、青山墓地で当時10歳の八木氏と遭遇したのは、奇遇にもこの部隊の兵士達だった。

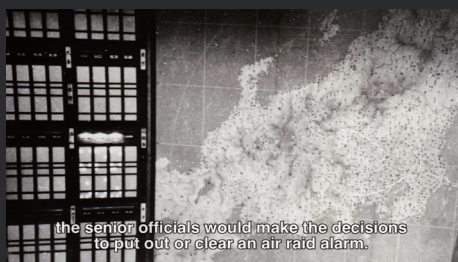
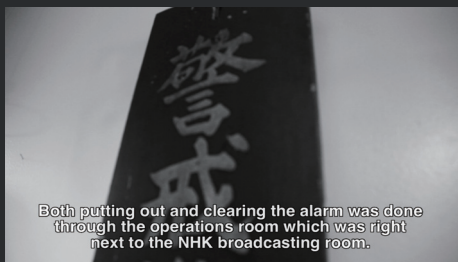
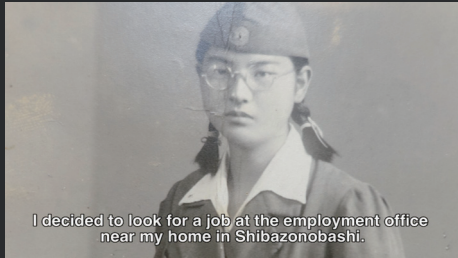
偶然知り合いお話を聞かせて頂くことになった3人は、偶然にも70年前、東京の中心部のかなり近いところで戦争を体験していた。これは、こちらの意図ではなく、制作していく過程で初めて明らかになった。

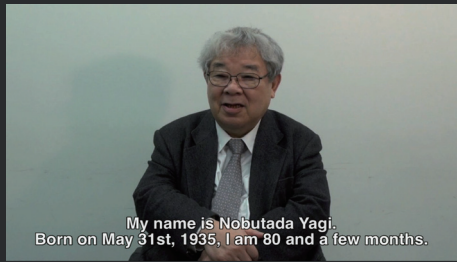
我々の取材の半月後に、山口氏は逝去された。山口氏は「女子通信隊」にいた事を誇りにされ、隊の発足時から従軍していたという責任感から、これまでも色々な取材に協力されてきた女子通信隊の生き字引のような方であった。改めてこの場を借りて、山口氏のご冥福をお祈りしたい。

スタッフ・キャスト

出演：外間加津子（Kazuko Sotoma）、山口竹尾（Takeo Yamaguchi）、八木信忠（Nobutada Yagi）
 撮影：大津はつね（Hatsune Ohtsu）、田中綾子（Ayako Tanaka）、監督：風間 正（Sei Kazama）
 翻訳：藤松 郁（Iku Fujimatsu）、Moe Zimmerberg 制作：ビジュアル・ブレインズ（Visual Brains）
 協力：中村のん（Non Nakamura）、東京大空襲被災資料センター
 地方の時代映像祭奨励賞受賞

2016年/カラー/30分





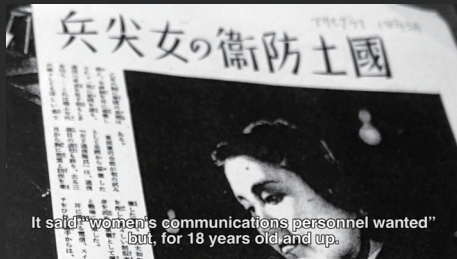
My name is Nobutada Yagi.
Born on May 31st, 1935. I am 80 and a few months.



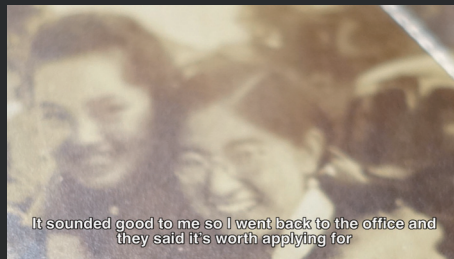
After 4 years, when I graduated,
I entered the Eastern volunteer corps.



I was the youngest girl in the communications corps.
I entered when I was only 17 years old.



It said "women's communications personnel wanted"
but, for 18 years old and up.



It sounded good to me so I went back to the office and
they said it's worth applying for



They had a heavy tray like thing
called "tenpan" that had cords coiled around it.



We rode the subway to Kaminarimon and walked
across the bridge, Ryougoku Bridge.



People who were commuting were given a large room



It was a secret unit and so there were no ranks.



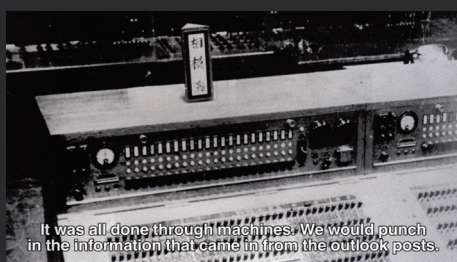
I was there for about a year. I wore a hand
me down uniform from someone who retired.



I had to go back to work again
so I couldn't help at home at all.



and piled the corpses on trucks
and deposited them around the stone lantern.



It was all done through machines. We would punch
in the information that came in from the outlook posts.



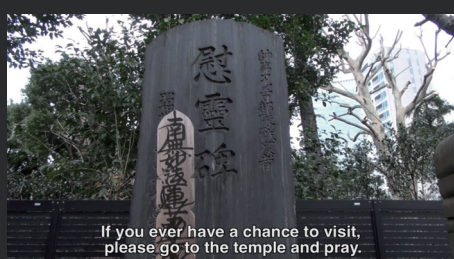
We received everything by listening,
then immediately punched it in.



You press it into the hole for the current position.



Also whenever there was an air raid announcement,
all of us who were taking a break at home had to leave.



If you ever have a chance to visit,
please go to the temple and pray.



Occasionally, he told me stories about that time.